明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三卷
第五號

明治三十八年五月二日發行

米國に於ける離婚問題（金子喜一）……一
妹の手紙……六
告天子（シエレー）……一〇
二葉園藝（エデンの花守）……一一
●朝顔の栽培　●牛蒡の葉の利用　●兩得の生籬　●セルリーと川弓　●理料問答　●苺の栽培に就て　●花の友へ
婚後半年（松の舍）……一六
人生最始の記憶……一八
料理の一品……二一
西洋風俗　戀の日……二二
四月の『いたづら』の結果……二三
面白からざる思想習慣……二四
家庭者としての吾　男性の缺點（渚山）……二七
『簡易生活會』の反響……三〇
青年の結婚（筆ついで）……三一

由分社
東京市芝區新堀町三十番地

由分社取次書籍目録

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

家庭の新風味

堺枯川著　全六冊合本　定價壹圓　郵税八錢

▲第一冊家庭の組織　▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學　▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂　▲第六冊家庭の教育

家庭夜話

堺枯川編輯　全三冊合本　定價壹圓　郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

小説 火の柱

木下尚江著　價三十五錢　郵税六錢

妾の半生涯

福田（舊姓景山）英子著　定價三十五錢　郵税六錢

青年と生存競爭

（本書に限り定價の二割引）

安藤兎毛喜著　定價二十錢　郵税二錢

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年四月廿九日印刷
明治三十八年五月 二 日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎
印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助
發行所　東京市芝區新堀町三十番地　由分社
大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

登録商標

壽美禮おしろい

五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ヴワイオレツト煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい●

壽美禮おしろい　ねり製定價（大壜二十錢 小壜十二錢）　水製定價（大壜二十 中壜十 小壜十錢）

ヴワイオレツト水製

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は　歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成躋體等を以て配劑しあるを以て皮膚を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顔肌等の色を白變せしめきめをこまやかに、にきび、そばかすあせも等を生せす御肌へを清々しく天然の色白きに至るべし『菫おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會祝席雜踏の塲所に臨て諸々の惡臭を退け不淨を拂ひ心氣を清爽快活ならしめ衛生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●皮膚艶白劑壽美禮あらい粉●

綠、藍、紅彩蝶番ひボックス入三錢
罐詰　六錢五厘　袋入　壹錢

●弊舗製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞讃する香料及弊店新製の原料を用ひて製せし物なれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば漸々皮膚の色を白くし美くして艶を出しきめをこまかに常に御肌を清々しくなし總面皮膚の患ひにかゝる事なし

●常に髪洗ひに用ひ給へば毛の抜る病を豫防し毛のくせを直し美くして艶を出し髪のねばりを取り油あかふけ等を生せず又絹綿布等に用ひて能く汚垢を落す總て物を漂白する性あり

●使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混ぜ入浴の際用ふるを耳とす

登録商標

西洋色白くなるあらひ劑

SUMIRE.
Washing Powder

壽美禮あらい粉

製造本舗

東京東兩國
元町兩國橋通り

伊勢吉壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣薬店其他各勸工場各劇場運動場に有り

●實際的にして趣味清新なり●

日本の家庭

毎月一回發行一冊定價郵税共八錢五厘●六冊五拾錢十二冊九十五錢

四月十日發行 第二號目次

●口繪（よろこび）……寫眞版
▲共に樂しむ……記者
家庭十種 ●富豪の家庭（學習院教授）……大村仁太郎
▲戰時に於ける家庭教育上の注意……松本孝次郎
●次代の樂園（結婚と子女の教育と）……鳩山春子
▲臺所の衛生（大日本私立衛生會編輯主任）……關以雄
●御國ぶり……中山幸子
▲家庭の純潔（女子學院長）……矢島揖子
●妻さだめ……劉芳子
▲家庭の王……（文學士）川田鐵彌
●共働の家庭（東京府立第一高等女學校教諭）……東くめ子
▲英國の家庭遊戲……準縄子
●秋色女史（井戸端のさくら あふなし酒の醉）……記者
▲白米の話……播幽泉
●文苑 ▲名無し草（みね子）▲狭き心（召水生）
▲和歌……三宅花圃選
▲婦人の師と子供の附け紐（女醫）……前田園子
▲日本家庭魂……西山鬼谷
▲父なる人に與ふる書……紫英生
▲贈物には何がよからうか……かさみね
▲あかさんの母樣へ……天ノ籟
▲四月の臺どころ……ゆふつき女
●三度の献立●讀者の聲●編輯だより●美文讀如

家庭書類

好評九版發賣
學習院教授大村仁太郎先生編述
教育寓話 **我子の惡德**
全一冊定價六十錢郵税八錢

（三月十五日發行）
獨逸ア、マチアス先生原著
日本大村仁太郎先生譯補
太郎は如何にして教育すべき乎
全一冊定價六十錢郵税八錢

（三月中發行）
學習院教授大村仁太郎先生編述
教育寓話 **我子の美德**
全一冊定價六拾錢郵税八錢

（再版發賣）
富永岩太郎先生著
兒童心身の發達
全一冊定價金一圓郵税十錢

發兌 東京市神田表神保町二 同文館 ● 關西大賣捌 大阪市備後町 寶文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廿世紀の婦人

一冊郵稅共金十錢
半年分前金五十五錢
一ヶ年前金一圓
郵劵代用一割増
（五厘切手）

第二卷第五號五月一日發行目次

一、多妻主義の罪惡……今井歌子
一、妻の呼び方……三瀬生
一、家庭と園藝……松山俊子
一、女子敎育私見……田中弘之
一、見合……雪江女史
一、婦人の活動……長連恒
一、婦人問題管見（承前）……默堂迂人
一、米國の婦人（承前）……島貫兵太夫
一、報酬の要求……川村春子
一、白山小集會、和歌、俳句、美文（文林）
一、雜報、通信

發行所　東京麴町區飯田町五丁目三十七番地　北海道婦人同志會

外科皮膚病梅毒 痔瘻 外科的婦人科尿道器械的療法
診察 午前九時より十二時まで
東京 新橋際 出雲橋 加藤病院
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 横濱神奈川臺。火木土午後二時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
電話本局八八八番 一三八五番
東洋內科醫院
院長 醫學士 高田畊安
診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷並臨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）
南湖院
副院長 醫學得業士 林止
診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後臨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）
高田病院施診所
主任 醫學士 松田三彌
診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●社告

今回由分社は移轉しました今後の御註文其他の御通信すべて左の所へ御郵送を願ひます。

東京市芝區新堀町三十番地

家庭雜誌發行所 **由分社**

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り

（電話 新橋）八一六番 二八〇八番

飯倉四ツ辻 **飯倉支店** 電話 新橋 一五七四番

赤坂表一丁目 **赤坂支店** 電話 新橋 二〇六八番

四谷大通り **四谷支店** 電話 番町 五一〇番

牛込神樂坂 **神樂坂支店** 電話 番町 六三〇番

本郷一丁目角 **本郷支店** 電話 下谷 七二番

神田須田町 **須田町支店** 電話 本局 二〇七三番

兩國米澤町 **米澤町支店** 電話 浪花 二五九〇番

淺草吾妻橋通 **吾妻橋支店** 電話 下谷 七三番

南品川一丁目 **品川支店** 電話 新橋 一一三九番

横濱吉田町 **横濱支店** 電話 横濱 一三〇四番

日本橋坂本町 代理店 **田中銀**

米國に於ける離婚問題

ハーバード大學院にて　金子喜一

離婚問題ほど米國民の頭腦をなやます問題はないであらふ。近時政治家や宗教家の間に、此問題が頻りと論議せられつゝあつて、既に大統領ルーズベルトの如きは、議會に向つて千八百八十六年以來放棄されてあつた結婚及離婚の統計を集めることを勸告したほどである。統計に從へば一八六七年より一八八六年に至る過去二十年間に於て米國は實に三二八、七一六の離婚數を有してゐる。而して、その增加の比例の如きも驚くべき者で、即ち一八六七年には僅に九、九〇〇の離婚數であつたのが、一八八六年には二五、五三五の多數を示すに至つたことである。一九〇〇年度にありては、米國全體の人口七五、九九四、五七五と曰ふ數よりして、一九八、九一四の離婚者を生じた。即ち全人口の四百分の一は離婚者であつたのだ。

佛國の一記者が嘗て米國に來て、離婚數の甚しく多いのを見て、米國は『仁惠の鄕土』であると評したが、成るほどキヤソリック教の如き宗教に依りて支配されてゐる國からみれば、確かに一種の仁惠に相違あるまい。一度結婚すれば、如何なる事情ありとも離婚のゆるされぬのはキヤソリック教の信仰であつて、近時に至るまでかゝる思想信仰が一般社會の道義の上に及ぼした感化は、惡しき方にも又善き方にも非常な者であつた。その弊として吾人は紐育の一醜業婦の實話を聞いたことがある。彼女の語る所に依ると、一家は皆な熱心なキヤソリック信者であつた。然るに一日彼女の夫が病死して了つて、自分は獨り孤獨を守るべく殘された。所が、生活上の難儀と、自分の獨りの小供を養ふ手段として、彼女は情けなくも醜業婦となつた。憐むべき彼女は、醜業婦を初めることは再婚するより

も惡しくないと思つてゐたらしいのである。かゝる例は素より一見例外である如く見るも、實はさうではなくて、似たり寄つたりの事實が種々なる形の下に行はれてゐるのである。

それで、米國に離婚の極めて多い事實は、一面社會の墮落を語つてゐるが、他面に於ては人間精神の自由であることを示してゐると思ふ。何故かと曰ふに、宗敎や信仰の力で吾人の精神の自由を打ち消して、一度結婚すれば、例令如何なる情狀ありとも、離婚を許さぬと曰ふは、必竟餘りに形式に走りて、眞の愛、平和、幸福と曰ふ點から見れば、何等の價値もないことである。

一言に離婚と曰ふと、何者をも意味してゐぬが、離婚も歷史的に見來れば、種々樣々なる變化をしてゐるのである。昔時野蠻な時代にありては、女子は眞に男子の奴隷であつて、少しく男子の氣に向かぬ行爲ありし時は、男子は無慘にも女子を殺して了つて、今日の所謂離婚を行ふたのである。かゝる時代と比較すれば、女子の側面から見る場合に於て、その著るしき女權の進步、自由の擴張は驚くべき事實であるまいか。今日の女子は所謂離婚法に依りて、男子の野蠻、獸慾性より救はるゝことが如何に多いことであらふ。

（二）

米國各洲の離婚に關する法例は、重に姦通を主題としてゐる。即ち、五十一洲のうち、五十洲までは姦通を以て離婚の最大理由としてゐる。その他、五十一洲のうちで四十洲に於ては飮酒の惡習慣、四十三洲にては法律上の罪人となりし時、二十四洲にては有意的に妻女を保護せぬ場合等を以て、離婚の理由のうちに數へてある。而して、サウスカロライナ洲には、所謂離婚法は無いやうである。今回政治家間に起り來れる問題は、殊に大統領ルースベルトの主張する所は、此の各洲異れる離婚法を改正して、成るべく各洲を通じて、一致せしめたいと曰ふのである。

從來の離婚法の如く各洲相異れる法規を有するに於ては、一洲にて理由とならぬ理由を、他洲に行きて離婚理由として堂々離婚を成就する輩が多くなり、從ふてある洲の離婚統計は著しく多く、他の洲の統計は甚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しく少ないやうな結果も現はれ來るのである。甚しきに至りては、歐洲よりわざ〳〵離婚を遂げる爲に、米國に來る徒も折々あるやうな始末であるから、是非此離婚法の一致と嚴密とを計らねばならぬと曰ふのである。曰ふまでもなく、かゝる法律の制裁は一面必ず必要であつて、殊に各洲一致せる離婚法を作ることの如きは、目下の急務として忘るべからざる點であらふ。吾人は大統領の此の主張に對しては、何等の異見を挾む要のないことを信ずる者だ。

然しながら、滔々たる離婚の增加を、かくの如くにして果してふせぎ得るかと曰ふ疑問が起らざるを得ぬ。抑も離婚とは必しも德義の敗退を意味しない。女德の腐敗を意味しない。離婚は婦人のエマンシペエーション(解放)の一面である。宗敎家の如きは口を極めて德義の墮落を唱へてゐるが、彼等は何故に一步を進めて、今日の結婚を觀破せぬのであるか。離婚は結婚あるから起る問題で、結婚なくては離婚も何も出來る者でない。然らば、今日の結婚の狀態如何と見來るならば、吾人は離婚問題の囂々たる詮議も、遂に何等の意味なきことを感ぜざるを得ぬ。

今日米國に於て、離婚沙汰の最も多く聞かるゝのは、比較的生活の餘裕ある者の間で、貧者間に起る問題としては、左程の問題ではない樣である。否な貧者にとりては離婚問題の起る前に、結婚が出來るや否やの問題が重大なのである。されば、離婚問題は富める階級の殆ど專有物であると曰ふも不當であるまい。而して、此富者の今日の結婚は如何。吾人は憚るまでもなく曰ふ。彼等の結婚は實に肉欲の結合であると。彼等は愛なくして結婚し、愛なくして離婚するので、離婚とは唯だに「あきた」の一言に盡してゐる。彼等は容易く女役者に婚し、幾萬の富の所有者でありながら、賣子女を嫁り、甚しきに至りては、財產ある後家とビショツプとの結合をも見るに至るのである。十七八の妙齡の女子にして、六十の坂を越へんとする老翁に婚するが如きは決してめづらしきことでない。彼等の結婚は肉慾と財慾の結合で、それを結合させる耶蘇坊主の所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謂神聖なる聖式も、又財欲のそれである。

吾人は今一歩を進めて女子の側面から、此結合の裏面を見たいのである。何故妙齢の子女が、愛もなく趣味も合はぬ六十の老翁を抱いて相眠らんとはするぞ。何故女ひでりのせぬ米國に於て、好むで古び果てたる後家を擇びて吾妻と呼ばんとはするぞ。忘れてはならない。米國に於ては、結婚は一個の職業となつたのである。結婚は最早や神聖なる一生の大事でもあらぬ。結婚は女子にとりては、喰ふ口にありつく唯一の方法たるに過ぎぬのである。故に、彼等はその愛のなき結婚を敢てして恥と思はぬのである。彼等は一個のタイプライター器械の如く、唯だ男子の色情を滿足せしむれば足りるのである吾人は離婚の一面を稱して女權の擴張と曰ふた。然り、女子は此の解放されたる權利を利用して、自己の衣食を得るの機械に用ひた。而して、彼等は職人が常によりよき雇口にありつきたき如く、常に眼を見張つて、月給の良き口をとさがしゆくのである。而して、昨日は甲に、今日は乙にと轉々として、その雇人を變へてゆくは無理もないことで、離婚はこゝに生じ、再婚は、彼處に增加しゆくも、決して驚くには足らないと思ふ。

米國母の會の會長、スコフ夫人は嘗て絶叫して曰ふた『千八百六十七年より一九〇一に至る、三十五年間に於て、米國は七十萬の人々が家庭を閉ぢ、百四十萬の男女が破鏡の嘆に落ち、而して、少なくとも百四十萬の小兒は此等破壞された家庭の犧牲となつた。而も、彼等は孤兒となつたよりも不幸である。彼等の父母は此無邪氣なる小兒等の心中より、早くも結婚、親心、家庭等の觀念を取り去つて了つたからである。』と。吾人は必ずしも自ら勝手になした破鏡に對しては、同情の一點をも寄するの要なき者であるが、かくの如くして暗黑と不幸とに殘された幾萬の兒女に對しては、泣かざらむと欲するも得ぬではないか。

彼等は早くも家庭を呪ふべく、兩親を憎むべく、結婚を厭ふべく、養はれつゝあるのである。こは眞に社會の平和を根底より破壞する分子で、吾人は來るべき

時代の社會道徳上の敵として恐れざるべからざる者である。米國の離婚問題の裏面に横はれる大問題はかくの如くである。一面に於ては婦女の職業教育の發達よりして、女子の獨立心を增加せしめたこと、容易く男子の奴隷となつて甘せぬこと。他面に於ては、生存競爭の恐るべき結果として、生活の不安、黃金の勢力がはびこり來りて、女子は結婚を以て職業と思惟するに至りしこと、富める男子は黃金で買へぬ者はないと思ふに至りしこと等で、詮じ來れば經濟上の事情が如何はどまで、社會道德を支配し、作爲し、變化せしめつゝあるかを明白に語つてゐると思ふ。

然らば、此問題に對する眞個の解釋は、從つて明々白々であらねばならぬ。即ち、婦人の經濟的獨立を益々計ること、恐るべき生存競爭の社會組織を根底より改造すること等であると思ふ。かくせば、離婚法の如きは無用の長物で、黃金の力を崇拜せし男子も、金で買へぬ者が世に澤山あることを見出すことであらふ。而して一面に於ては教育、文學、美術等の力をかりて、趣味の高く、品性の貴く、心のあたゝかきことを修養しゆくならば、吾人は此の恐るべき離婚の流行を去ることが出來るであらふ。操り返して言ふ。愛なき結婚は滔々たる離婚の原因で、而して愛なき結婚は經濟上の原因に寄る所多くあると云ふことである。吾人は限りなき離婚の害毒を止めんとする前に、先づ限りなき無愛の結婚をふせぐの道を講せねばならぬ。

●若葉拾句

院々の齋のけぶりか谷若葉　旨原
窓の燈の梢の昇る若葉かな　蕪村
若葉して水白く麥黃みけり　仝
濃く淡く艶ある色や谷若葉　太祇
水音も若葉も木曾の日々〱に　召波
寄生木の目を發したる若葉哉　蕪村
谷路行く人はちいさき若葉かな　仝
淺川の西し東し若葉かな　仝
山畑を小雨晴れ行く若葉哉　仝
若葉吹くさら〱〱と雨乍ら　惟然

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

妹の手紙

その兄

兄様！私この手紙を書くまでに幾度び思ひ返し、幾度び思ひ直したでしやう……而し、今私の決心は事の仔細を兄様に打明けて「宜しい」といふお聲を聞かなければならない程固くなつたの。

兄様、私今度〇〇學校を退學しやうと思ふの。勿論、兄様のお許しを待つて――モー此年一ぱいといふ矢先に、是は亦何といふ事たと吃驚きなさるでしやう。私にしても僅か一年で卒業するのを、見すく／＼茲で退學するのは殘念で殘念で仕方がないの。又永年兄様のお世話になつて、漸く仕上りかけた今、こんな我儘を申上げては濟まないとは尚々承知もしてゐるの。だから昨日も一昨日も考へては泣き、泣いては考へたの。而し、私はどうしても自分の意志の自由を束縛されてまで、學校を卒業しなければならないとは考へ直されないんですもの。

譯は斯うなのです。此間の日曜日の朝だつたの。新宅の芳雄さんが私達が漸つと朝飯を喫べるか喫べないかに來て、それ、何時も御自慢のバイオリンは宜いけれど、私にオルガンの伴奏を急立てるのでしやう。未だ今朝は髪も解かないんですから、といふのを、何今日は靜さんと上野へ散歩に行くんだから。と芳雄さん、先月兄様に奢つて貰つた芝居の露營の夢れ――アレが奏けるやうになつたので、私のオルガンと合奏したくつて仕様がないの。其替り、芳雄さん歸りは西洋料理よ。と兄様の能くお仰る双務契約を締結して、隨分奏いてよ。やがて正午ごろ迄――すると婆やが學校から誰様かゞ入らしやいました。といつてきたの。誰？。吉岡のお饒舌奴だらう、彼奴僕が來ると屹度やつてくるから、と直ぐ芳雄さんの惡口。およしなさいよ。そんな大聲で、聞えたら惡いじやありませんか。と大急ぎで私が玄關へ出て見ると、マー學校の幹事さん！今日は學校から生徒の査察に來たのです。偖ては然て噂のと氣が付いて、今更自分が餘りお轉婆をしてゐたのが恥かしくつて、返事も明晰とはいへなかつたの。「貴女は今獨りで此家に住んでゐるのですか。」「いいえ。」「御兩親が在らしやるのですか。」「いいえ。國から來てゐる婆やと一所に居ります。」「それじや別に男は居ないんですね。」「はい。」「茲にある靴は誰のです。」「兄様、職務かは知らないが此間は何たる事でしやう。餘り腹が立つたから、私は一層返事もせずに默つてゐやうかと思つたけれど、默つてゐて反て無い腹を探られるでも無いと思つたから、「是は遊びにきてゐる從弟のです。」「はいそれが大學生とかいふんですね。」「何んですツて？。」「イヤ明りました。兎に角女一人の所へ男の學生が遊びに來てゐるなんかは、餘程注意をして貰はないと、學校の風儀に關係しますから。」と云捨てゝ歸つたの。兄様、私どんなに口惜しかつたでしやう。影で聞いてゐた芳雄さん、アレが幹事かへ、人を馬鹿にしてゐる。靜さんも靜さんじや無いか、何故もつと明瞭に答辯をしたいんだ。人を侮辱するも甚しいじや無いか、僕が大學生だつて？屹度吉岡の奴、學校へお饒舌をやつたんだよ。而し、靜さんの臆病にも呆れたな。僕なら「ハイ私にとつては未來のハスバンドですと大びらにやるのに。」芳雄さんは男だけに氣にも掛けないけれど、私の心の苦しみは又一層です。思ひ切つて芳雄さんには、モー逢はないやうにしましやうといはうかとは思つたの。けれど、私だつて天にも地にも唯一人の兄様と放れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、東京には親類も縁者も無し、力になつて貰うのは芳雄さんだけなんですもの、私だつて遭いたいし、芳雄さんだつて私に遭ひたいんだわ、それも何か芳雄さんと私との間にあつたのなら知らぬ事、唯學校の休みや閑の時に、合奏したり、散歩に伴れ立つて行くのが何故學校の風儀を害するでせう。私翌日學校へ行くのが憂らかつたの。けれど行きました。案の如く學校ではモー大評判、ヤレ私が男と押戲けてゐた所を幹事に踏込まれたの。何んでも其男は大學生では無くつて男淫賣のと。それは聞かれたものじや無いの。而し、私も其位の事で逆上するほど今は内氣でも無いやうだ。一徹で、我儘で、すれてる所は兄様そつくりだ。芳雄さんが能く私を調戲ふけれど、私も今斯かる誹謗を友達から受け乍ら、反て此中を平氣で通り抜けるのも面白いやうにも感ぜられたの。兄様、私そのお晝休みに敎員室へ呼ばれて、大勢の先生と煙草の煙に取圍かれながら、墮落呼ばりをされて訊問されたのじやありませんか。兄様、私だつて女です！

兄様！靜枝と關野芳雄は満坐の中で侮辱されたのです。私は「聞きたい事がおあんなさるなら、保證人に成つてゐる兄様に聞いて下さい。」といひ乍ら室を驅け出して、それなり家へ歸りました。私は泣いて泣いて泣いて心のゆくまで泣き明かしました。芳雄さんに話さうか、さうすれば靜雄さんは學校へ行つて事を辯明して下さるには違ひ無い。否寧そ學校へ喧嘩に行つて下さるに相違無い。而し、其結果は名譽回復どころか、侮辱されたる自分は更に窮境に陷つて、終には新聞にまであらぬ浮名を流すやうになるべきは高橋さんの例を見ても明なのです。

兄様、私も少し位の毀譽褒貶に氣を痛めてゐては誤解と誤解で出き上つてゐる此社會を、全く切り脱けて行けるもので無い、と云ふ兄様の言葉を忘れやしたいのです。だが、途を歩けばお友達から墮落式部と指をさゝれ學校へ行つては先生から生意氣の、風儀を亂すのといはれては、如何に強情な私でも堪え切れきれないわ。

兄様、私どうしても侮辱された學校に籍を置いてゐやうとは思ひ直せません。又自分の面目と、意志の自由を迫害されてまで、同じ學校にゐなければならないとは考へられませんの。私は兄様の御意見を謹んで待ちます。

靜枝

兄上様

手紙に接したる予は敢て驚きもせず、又進んで事實の眞相を探究しやうとも、しなかつた。のみならず、予は寧ろ我妹が識見の若きに似合はず、儼然たる抜き難き決心を賴母敷思つて、何等躊躇する所なく「貴校の處置に對して感ずる所あり」と退學届に調印して送つた。勿論斯くの如き届書は從來の慣例に違背するの故を以て、再三妹の手に返戻された。而し、何も「都合に依り」といふが如き漠然不要領なる理由の下に、退學するに非らざる妹は、是にも係らず、同一届書を再三差出した。斯くして、やがて半年ばかりは結着せずにあつたが、終に學校は無斷欠席の條項の下に、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生徒名簿より彼女を除き去つたとか。而し、又聞く所に依れば、我妹は墮落式部の一人として、今に新聞に出るかも知れぬとやら。

特に事實を明細にする必要も無いが、妹の所謂芳雄さんとは我が伯父の子で、妹とは從弟同志の筒井筒、振分髮の幼な馴染であるのみならず、意氣相投し、戀厚きエンゲージの仲で、彼れが工科大學を出た曉は結婚すべき運命の二人である。然らば、東京に親類といふほどの知人の無き予が、彼れを妹の慰藉者、忠告者、監督者として撰定したのは決して不當ではあるまい。

近時女學生の墮落といふ聲高く、新聞紙上にも屢々女學生の操行に關する記事の暴露さるゝに至り、東京に於ける多くの女學校は、其學生が一時の誘惑のために一生を誤るを悲しむといふ事からでなくつて「何々學校の生徒が」と新聞でいはれるのが學校の隆盛問題に大影響を及ぼすを苦慮焦心し、之が豫防の爲め種々の方法と手段とを試みし最後に、臨時家庭査察といふ檢査官然たる所置を爲すものあるに立到つたのである。

予は必ずしも此方法を非難するものに非ず、然れど、學校が徒らに世の風評を恐るゝの餘り、事情の眞相を明白にもせず、戀愛を否定し、男女交際を以て直ちに墮落を想像し、エンゲージを以て直ちに野合を聯想し、互に許し親も許せし戀ひ仲を、あらぬ濡れ衣の墮落呼ばりまでして、竟には女生の學校經歷に一大挫折を來さしむるに至りては、予も亦一言の恨なき能ずである。

人或は妹に對する予の態度を以て、聊か極端に走れるものと、なすで有らう。蓋し、今日の狀態から見れば、或はさうかも知れぬ。何となれば、學校の申條に從つて今後彼の芳雄さんの出入を妹の家から止めさへすれば、四方圓滑に解決されたんだから——而し、これば不幸にして予の性質には忍び能はぬ所である。いふ迄も無く、妹に對する予は、學資の供給者であり、長者であり、將た亦戶主である。事に依りては、予は予の意見を妹の上に主張するに於て寸毫の逡巡も必要としない。然し、予は妹が正當なる戀の樂しみと、

結婚の幸福とを犧牲にせよと主張するの權利は無く、又さる權利を有し得る事を予は決てて庶幾はぬ。こは必ずしも予のみの感想ではあるまい。恐らく多くの人と雖も、若し一人の愛妹があつて、一人の寄り人も無く淋しい、心もとない、獨居をしながら、學校へ通つてゐるとして、それに立派な學校に居て行々は其妹の夫とならんとする青年があり、而かもそれが從弟同志であると假定して見玉へ。如何に心強き兄でも其妹に夫たるべき青年との交際を斷てよ。愛を犧牲にしても學校を卒業せよといふが如き無情なことがいへやうか。況して予の如き多情多恨の者に！

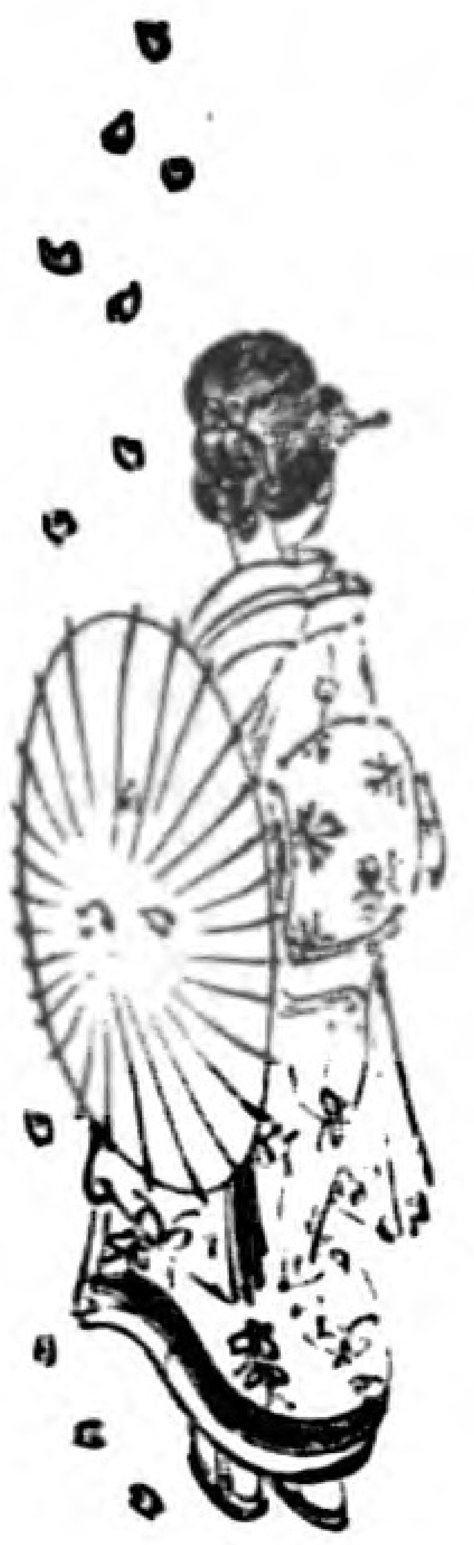
學校の虚榮と、友人の風評と、無責任の新聞紙の罪とに依りて、無限の痛手と迫害とを蒙つた學生は啻に予が妹のみに止らぬと思ふ。見聞したのは二三を出でるが、其内別けても予の心に染みてゐるのは、予が友人にして音樂學校でピヤニストとして囑望せられてゐた青年が、同じ學校の、これもバヰヲリンでは校中列ぶ者なしとまで謳はれた女生徒と、ふと青春の戀を契つたが、例の學校休憩所での生徒の影口や岡燒が、學校の耳へ入つた矢先、折も惡く二人が夜散歩をしてゐたのを鵜の目鷹の目の新聞屋に見込まれて、二人は學校を放逐され、親からは不義者として勘當され、女は知らず、男は今では或人の情の袖に、或學校の教師をしてゐるが、埋れ木の何時世に又出るであらう、其際予は友から細々の手紙を受取つたので、學校の當局者に對し、餘りに處置が輕卒に過ぎはせぬかと問糺した事があつたが、其答へに曰く「成程事情はさうでもあつたでしやう。然し、新聞へも出た事であるし、大勢の生徒の風儀にも關係しますから――實に學校でも望みを屬してゐた生徒故、惜しいには惜しいですが、兎に角一時退學といふ事にして、又來年にでもなつたら何とか復校が出來るやうな方法を講じましやうから……」と、これが堂々たる官立學校の態度とすれば、營利を目的とする私立の女學校などが、世間の評判に左右されてゐるのは強ち咎むべきほどの事では無いかも知れぬ。而し、是れがために少なからぬ女學生が、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

侮辱と迫害とを蒙りつゝあるは、人の餘り注意せぬ事實で有らう。予は敢て我妹に對する某學校の處理を難じて、茲に復仇的態度を執らんとでは無い。唯斯くの如く悲慘にして而かも奇怪なる現象が、現代の女學校に依りて演出されつゝあることを年若き妹御又は娘御を持つ世の父兄に警告して置きたい覺悟なのである。

●お轉婆娘論●●●●

お轉婆娘とは蓮葉女、淫奔女を意味するのではない。別の言葉で云へば、其德性や良心に缺けた所のある事を證明した言葉とは解釋せぬ。性情が快活で社交的の才能あり。又男子等の仲間へ這入つても、少しも恐るゝ事なく共に議し共に樂み、女なりとて一歩もひけをとらぬと云ふやうな意地もあり、そして眞逆の時—輕薄な男子などに出逢つた時——には端然たる態度で、急所深く一本きめ込んでやると云ふ風の娘が、吾等の理想せるお轉婆娘の標本である。今後娘を教育する上の最大要義は、須らく此「お轉婆」にあらればならぬ。



告天子（其の一節）（シエレー作）

雲にそびゆる高殿に、
かすかに響く琴の音は、
人しれぬ戀を洩らさんと、
すさぶ乙女がわざならん、
汝が歌聲もたゞそれよ、
妙なるしらべ琴に似て。

宿る谷間の草かげに、
身を置く露の花かげに、
天つ光をほの／＼と、
放つ螢の如くにて、
黄金の色を花に葉に、
散らす螢の如くにて。

そよふく風にやぶられて、
まだき紐とくバラの花、
顔は青葉にかくせども、
かくれぬ色香は飛ぶ蝶の、
心を空にとかすまで、
あゝ此花か汝が愛は。

草葉にそゝぐ朝あめか、
花にうろほふ夕つゆか、
そのうれしさも新さも、
なほうつくしきその色も、
およばぬものは大空に、
ひゞき滿ちたる汝が調べ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

エデンの花守

二葉園藝

●朝顔の栽培

――稲井　長閑生質問――

朝顔の骨董的栽培を企てますと、一と通りや二通ではイケませんが、私等のやうに唯だ彼れの性質による尋常一様の栽培ならば、難しいどころか、頗る愉快に育てられ、相當の花を咲かせられるのであります。

扨て其尋常一様を今少し細く談しますと、先づ素燒の鉢を用意しまして、其中へ底の孔がちよつと塞るぐらゐの歪んだ石を置きます。これは餘分の水が流れ出るやうな隙をあける爲めです。それが濟むと今度は小豆か大豆大の小礫を三四握入れて一層排水をよくし、其の上へ肥土と細砂とを等分に混せたのを盛り、そして均らし、一寸平手で押へて四五日置くのです。それから、兼ねて選んである種子を三四粒位置よく植えるのであります。斯樣にして蒔き終れば、油粕を溶して拵へた薄い水肥を三四日に一度くらゐかけ、其間に水を時々灑いで、鉢の中の土を乾かし過ぎぬやうにせねばなりませぬ。左に注意の概要を擧げませう。

△五月下旬頃蒔けばよい。

△深植するはよろしくない。

△肥料をかけ過ぎ、或は度數多きに過ぎ、又は濃厚に過ぎるのはイケませぬ。前に三四日に一度と云ひましたのも、一つは肥料と時節によるので、一概にあれに據つては却つてイケませぬ。

△法に拘泥してはイケませぬ。自分で經驗してよい方法を考へ出さなくては。

△世話を多くすると趣味も亦多い。從てよく出來る。

△莖の仕立方もお互の好むやうに育てること。或は心を切り、或は支柱を立てゝ。

△籬根に匍ひ上がらせるも妙です。

●牛蒡の葉の利用法

――岩槻生質問――

大きい牛蒡の葉を彼の儘枯したり、棄てたりするの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は如何にも惜しい。何か利用するの道はなきか。との仰せですが、いまの所これと思ふ方法も考へつきません。けれど牛蒡餅にするのは妙だらうと思ひつきましたので、一寸紹介します。

牛蒡餅は秋田縣横手町の名產として、ゴンバモチと稱へ、誠に佳いとの評判があります。その製法は、新鮮な牛蒡の葉を採り、柔かになるまで湯煮し、それから水に浸すのです。浸水は何度も淸いのと取り換へ、遂に濁らぬやうになれば、取上げて細く刻み、臼に入れて搗くと誠に柔軟くなります。それに、粳米粉を適度に加へて能く捏ね、又た湯で煮るか蒸すかして、それから再び臼に入れて搗くならば、光澤のある綠色の餅が出來上るのであります。

●兩得の生籬

——東京　及川君質問——

何か眼と口とを喜ばす植物を選んで生籬にしたいとのお尋ね。御尤の仰せで必要なことだが、別に妙案を持ち合ひません。が、或る方、左樣、札幌の三瀬君だと思ふ、スウヰートピー（香蓮理草）を生籬にしてヨホドよい結果を得られたやうに聞いた。けれど、アレは一年草だから注文に外れる、と申して氣づいたものもない。木槿は花が美しけれど落葉樹で生長が遲し。茶の生籬は尤も妙だと思ふが、諸君には如何ですやら。果樹で生籬するのも面白いが、外方から盜まれる心配があるから、憖ひお互に罪を作つてイケません。

近頃農學者と云はれる方が、外國產のアカシヤと言ふ荳科植物を利用して籬にせよと勸めますが、針はあつて不規律に生長するものだから、從來の枳殼流で妙味がない。

斯樣に詮議すればするほど思はしいものがありませんから、此の話は暫く預りとして置きませう。

●セルリーと川芎

——綠亭子質問——

漢藥に使ふ川芎がセルリーに代用出來ぬかとの仰せ、差當り川芎を栽培して居ませんので、確なことは申されませんが、御存じの通りどちらも繖形科（植物

學上）の草木ですから、香と云ひ、花の咲き態と云ひ、互に酷似して居るのは仰せの通りです。併し「科」は同じでもセルリーは Apium 屬ですし、川弓はハマウドなどの有毒草を出す Angelica 屬なのですから、此莖葉の香料用とするは、其可非に於て保證出來兼る點もあります。殊に我等が香料として賞するセルリーにさへ『其綠葉には毒あり食ふべからず。』と、白井氏が著書で述て居られる。併し、セルリーと同じく軟白したのは、充分賞味されませう。

●●●セルリー（塘蒿）オランダミツバ又はキヨマサニンジンなどと申しまして、此主成分のアピオールは藥効あるとのこと。形態等は八百屋にあるので御存じでしやうから申しません。

●●川弓。本名は芎藭と云ふので、其之を川弓と云ひますのは、支那蜀の川洲の產を上等品とするからだと傳へます。日本の古名はオンナカヅラですが、現今は和名も漢名の音讀なるセンキユウを用ゐるやうになりました。丈は一二尺で枝多く、葉は芹に似て居て香氣が高い。秋季、開花して實も結びますが、是は當歸に似寄つて居ります。根は川弓と申す漢藥ですが、葉も蘼蕪と云ふて漢藥になるそうです。また老農の談に、此川弓を煎じ出した汁を、元氣衰へた庭木などの根元へ注いでやると恢復すると申します。尚は頭痛の藥だとも言ひますがナゼだか、未だ研究しません。

日本產のものに、ヤマセンキウまたはシラ子センキウと申すもの及びオホバセンキウと申す二種があります。

●理科問答

●●●●●花色の歷史（下谷、歷外生質問）學者の說は大抵定つて居る。そして、理屈だから勿論言葉は冷たい。

元始時代の花色は主にどんよりした白で、今日の風媒花（風の媒で生殖を全ふする花）に類したものでした。それから昆蟲との關係で漸々進化しまして、白は黄に、黄は赬黄に、赬黄は赤又は紅に、赤又は紅は青に進み、遂に紫に進んだものらしい。と言ふのです。

そこで菫の花の色は現時最も進化したものだと謂つて

居ります。

●●●苺の藥効（札幌、愛讀者質問）　『自分の栽培して居る苺に藥効はあると聞きましたが、果して左樣なら、自分の愛するものを研究する必要から此理屈が聞きたいのです』とのお尋ね。

西洋の某地方には、苺がリヨマチス病に實際効力があると云つて居ます。即ち、苺には該病の特効藥たるサルシル酸を含んで居るからだと申します。けれど、サルシル酸は苺ばかりでなく、林檎、葡萄、梅、櫻桃、蜜柑などにも含んで居りますが、孰れも果實一キログラムの中に僅か一ミリグラムしか含んで居らぬから、如何に特効藥とは申せ、とてもサルシル酸の爲めに効能あるとは思はれません。こは一種の迷信でせう。

●●●詩人と科學者（芝、谷内君質問）　『花に就き何時も有趣奇拔な御說を承り拜誦措きません。就ては「詩人と科學者」に對しての御意見如何』との仰せ。初めにホメて置いてドスンと難しい御質問、恐れ入りました。

ハイチの「ハルツの旅」の一節に、

大詩人と等しく天然は、小なる手段もて大なる効果を致す。

それ、こゝに太陽あり、樹木あり、花あり、水あり、而して愛あり、觀る者若し滿身の愛あるに非ずんば、事物、そも、何んの趣味かあらんや。

太陽をみては唯其直徑幾何なりやと思ひ、樹木を觀ては好燃料なりと考へ、花をみては蘂を數へて何々科に屬すと評し、水をみては唯だ濕ふものなりと言ふ。何んの處にか趣味を語らんや。

と云ふ一節があつたやうに思ふ。

ハイチは科學者から「水は濕ふものだ」とのみ聞いて、其水と人文の關係を觀て、其詩觀に微笑んで居る科學者あるを知らなかつた。太陽の直徑を計るのみを見て、科學者が太陽も一個の物質の燃燒するに止るを究め、遂にそれが盡きる時あるを達觀し、それが人類の上へも及ぶを洞察して一種凄愴の感に打たれる大詩觀あるを知らなかつた。一個可憐の花を研究して、遂に神に到る底の趣味と詩歌とを知らなかつた。

斯樣に言つてみますと、ハイチによつて科學者の缺點現はれ、またハイチによつて詩人の缺點が暴露されたのであります。

●苺の栽培に就て

前號の『苺を作れ』の記事中、植ゑた根株は三四年に一度づゝ新苗と代へる方がよいと申しましたことに就き、札幌の先輩三瀬君から『宿根草として取扱ふがよい、三四年も同株で置くと莖やら蔓やら株やらで、苺のイの字も出來ぬ。そして、遂には苺にコリ〳〵したと云ふやうになる。』との仰せ、御教示有難う存じます。されど、私の「三四年同株でと」申しましたのは、手入を充分にし、御枝も摘み切り、只管根株を大きくし、施肥、除草を怠らねば、との意でありました。左樣すれば、隨分イの字以上の苺が獲られる筈です。併し、仰せにより私及び讀者諸君が一つ學問をした譯ですから御厚意萬謝します。なほ、以後經驗淺き我等の言行に就いて萬事永久御教示を垂れられんことを。

次手に皆さんへ一言申して置きます。それは私が此圃で申上げることは、大抵私丈けの經驗によるのみで、流儀がいろ〳〵ある上、其の淺い經驗は迚も完璧の記事と申されません。それに私は唯入門を云ふ丈けですから、縱令少しの間違はあつても、それをお氣づきになつて善い方を選んで下さい。人のこしらへたものは總て缺點勝です。私もそれを自覺して申上げるのですから、經驗の上善い方を選び、それを實行し、また知人へ致へて下さるのが望ましいのです。

●花の友へ

△石狩石丸君へ。菜豆及南瓜の種子慥に戴きました。直く越中の讀者へ送りました。

△靜岡宮本君へ。仰せの花の種子少々送つて置きました。

△岩代愛讀者へ。お尋ねの草花の水揚法は貴君の地方で得られるものを何程でも指して下さい、それでないと申上げるに惑ひます。勿論私は知らぬので、妻から斯送らせでも致しませう。

△大阪森田君外三君へ。新聞で實價何程送れば……との大々的廣告を見て朝貌の種子を註文なさるのはイケません。種子は總て信用ある種苗店で買ひ求められるがよい。(南品川妙華園、早稻田農園等)

△神奈川小山君へ。仰せの種子を少々送つて置きました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婚後半年

松の舍

結婚して早や半年、此間、心に浮びしとりとめもなきたはこと二三、一筆に書き下して我が友の許に送る。かゝる中に若し採るべき節もあらば二人の幸である。

▲妻定め

妻にはよく己の知りぬいたものを迎へる事。

此定義は飽く迄實行せねばならぬ。苟も新空氣を呼吸せる青年、新家庭を作るべき運命を持てる青年は是非共此定義に依て其主義を立てねばならぬ。

如何なる性質だか、どんな經歷だか解りもせぬ者を、一寸寫眞顔がよい位や、媒介者のお上手な取持に、ウッカリ乘氣になつてはいかぬ。

知りぬいた者といふ中には、予は男女相方に充分愛の成立せることをも意味させてある積り。此が妻を迎ふる上に最大の要件で、若し此最大要件が充實しない以上、折角造つた大事のホームも、畢竟は礎のない家を建てやうなもの。

媒介者のお上手な口車に乘せられたり、一寸寫眞顔がよい位の輕薄な見當で、直ちに妻定めの仕事が成立つたものと考へる輩は、未だホームの眞の意味を解せ

す、又其樂土を作る資格のない者である。一面から云へば、彼等は女を以て一個の道具か慰み者位に視て居る人で、其等は勿論人類幸福の敵と云はねばならぬ。

併し、相熟知せる者、相愛する者の結婚に就いては、我邦人間にはこれを往々にして歡迎せられぬばかりか、一種輕蔑的意味の下に否認排斥せらるゝ風があるのである。此舊式にして些の同情もなき世間の思想に對しては、吾等青年は儼然たる態度を保つて、飽く迄も勇猛力戰する覺悟がなければならぬ。尤も、他の一方に於ては、終始の身の修養練磨に怠なく、一定見を固うし、所信を强うし、尚ほ進んでは獨力自營の道を講じ、婚後、父兄の財產を狙ふと云ふやうな、意氣地のない考は忘れても持たぬ決心がなければならぬ。かくて諸君が理想のマリエーヂが自然に父母の歡喜を以て贊成せらるゝ樣になるならば、それ程祝すべき事はないであらう。

▲夫婦喧嘩

愛の家庭には夫婦喧嘩もなくてはいかぬなどゝ言つたものがある。併し、予は若しも愛と敬とを以て誠に結合せられた夫婦間ならばかゝる、忌はしい現象は求むるとも得られまいと思ふ。總じて、家庭といふもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が平和で、二六時中和氣藹々たる樂園である以上、一日たりとも暴風雨の吹きすさぶことなどあつてはならぬ筈。即ち其夫妻の心には、怒とか恨とかいふ感情の動く隙がない譯である。もと爭といふものは我儘勝手から起るもので、人としては、修養の足らぬ、最も耻かしいことであると思ふのだ。

世には又かゝる喧嘩口論を防ぐ手段として、細君操縦策などいふ言葉を口にするものがある。かゝる輩は所謂通なるものをきかしたものであらうが、予は聞いてもぞーつとする。彼等はこれに依て、其妻に愛と敬とのない事を、自ら他人に告白して居るのである。

▲虚　誇

門構でなくてはならぬ。玄關がなくては耻かしい。下女がほしい。車夫を置きたい。厨に肥肉、厩に肥馬。妻には着飾らして何もさせたくない。などいふ一種忌むべきバニティーに驅られ、すべて妻を迎ふるには一に己が富の程度にのみ顧慮し、若し此等の慾望を恣にすることの出來ぬときは、人生の幸福は得られぬものと悲嘆に沈む男がある。

私は奏任か勅任の人でなくてはいやよ。代議士位でなくてはつまらないわ。豪商に限るわ、など呼號し、馬車で威張りたく、見榮の慈善がやつて見たき外、他に何等の定見ホープなく、果ては貴い處女の貞操を官位や黄金に下に投遣つて、無愛情の果敢なき生涯を送る、憐れむべき婦女子が往々ある。

輕浮なる此等男女が、バニティーに煩悶することの如何に愚なるよ。されど、かゝる輩が今の世の青年男女には數知れぬ程あるのである。

予は妻と共に常に斯う語る。

『彼の小鳥を見よ。彼等は朝早く塒を出で、僅かの食を得て、樂しく歌ひ遊びつゝ、疲れて、夕には温き巣に就き、斯くて一日一日を神の心に從ひつゝ過して行く。彼等に何の怨もなく、何のつぶやきも、何の怒もない。我等も夙に起きて樂しく笑みつゝ一日の仕事を勵み、疲れて靜かに平和なる眠に就く。嗚呼如何に樂しきよ。』

我等には幸にして何等輕薄なるバニティーもないのである。

〔松の舍主人は予と同窓の友で、今京都の中學に教鞭を取り、妻と共に理想のホームを樂んで居る。以上の三項は彼の空論でなくして、眞に實行の條目であるのです。＝落山〕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人生最始の記憶

〔小兒の性質を改造し得るや〕

兒を以て神の預け玉ふものと信じ、其人格を作る上に非常なる責任を自覺して居る建部竹陵氏より、記者に宛てた一篇の寄書があつた。愛兒養育上の好參考となり、將た又兒童心理學上の一研究問題ともなるべきを思ひ、要點を拔萃して茲にこれを公に致します。

私は先頃の萬朝報紙上で、日本神經學會の席上で高島平三郎氏が演說せられた內容として、左の如く揭げられたるを見ました。「人生最始の記憶は何時にあるか、若し其時が分つたならば其時代が敎育すべき時機なるべく、家庭に於て大に注意すべしとて、研究したる報告を齎した。其研究の方法は兒童の境遇、人事界、問答、觀察、實驗等よりするので、今日までに調べた結果に依れば、男は四歲の時が尤も多く、女子は三歲の時尤も多い。此記憶が感情に關する怖い、嬉しい、悲しい、面白い、と云ふ樣なものが最も多かつた。」と、私は此を讀みました時に、覺えず幼少の時の事をそれから夫れと、限りもなく思ひ出して、實に言ふべからざる感慨に胸塞がつたのみならず、實に人生最始の記憶が、男子は四歲と云ふ事の事實なるを感じ、遂には我子の事に思ひ到つたのです。

今私の腦髓から限りもなく喚ひ起された私の幼少の時の事で、稍や著しと思ふ所の二三を申述べ、追々と私の考に就て示敎を仰ぐことゝ致します。私は三歲の時(所謂數へ年)父母と手を別つて伯父伯母の許に托せられたのです。其時の事などは少しも存じて居りませんが、明けて四歲の時伯父の家の階子段に菓子を刻んで並べたり、友と共に二階から轉け落ちて、階子段の下に締めてある障子を打拔いて坐敷へ飛込んだ事、其當時隣家の令孃(其頃五六歲、姓を岡、名を今子さんと云はれました)と二階で互に着衣を交換して、私が餘所の叔母さんと云ふ格で、飯事をして遊んだ事、裏の小溝に橫倒しに落ちて全身に溝泥を被り、近所の老婦人に連れ歸つて戴いた事、痲疹上りに床から拔け出て、庭の隅で紙鳶を飛ばして居るを、伯母に見付けられて叱られたる事、其當時伯父の養女であつた姉に橫抱きにせられて、屢や〳〵と搖ら

れた事などで、中々多趣味の事であります。併し、其翌年には今子さんの家は移轉される、姉は夭折する、又伯父の家も其年に移轉しましてから、遊ぶべき友もなく、又著しく感じた事の無き爲めか、其年の半分程に就ては餘り記憶もありませぬ。そこで、六、七、八、九、十歳位迄の間の事はぼつ／＼覺えて居りますが、十一歳一年の事に就ては何の記憶もありませぬ。

　これから少しく私の長男に就て目下の模樣を御話し致します。長男は本年四歳で、昨年の暮頃迄の物の言ひ樣は三歳の幼兒には少し後れて居る樣であり、全く本誌第二卷第十二號に載せて戴てある通りでありましたが、本年になりましてから、いつとはなしに物の言ひ樣、さては擧動なども、一進歩を致しました。何にせよ餘り壯健でありませぬから、體育に就ては大に苦心して居りますが、未だ漸く四歳と成た許りの小兒の事ではあり、別段此ぞと考へ付た事もありませぬから、棒切れなどを持たして少しあばれさせたく思ひ、木刀、洋劍等を與へましたが、餘り喜びの色もなく、障子襖を破ると云ふ樣な事は實に少いので御座います。止むを得ぬから、此頃では日々夕飯後、或は日曜其他休日に雨でも降るか、又は外出の出來ぬ時には、必ず私と相撲をする事に致しました。此は少し御氣に召した樣子で、折々「クモウ、クモウ」と云ふ請求に逢ひます。又私と共に一二／＼と申しつゝ室内を走り廻る事もありますが此も中々喜びます。其後、一度能の見物させてから、俄に扇子の請求が出て、是れは非常の喜びで、今日でも常に之を持ち、室内をオー／＼と申しつゝ舞ひの眞似をして居ります。或時は「トーチャン、オー／＼」と申し、私に謠へと申しますから、何か「オー／＼」と申しますと自身も共に「オー／＼」と舞ひ始めます。又頗る綿密で玩具などを並べて遊ぶ時、少しにても横になるとか、倒になると中々承知せず、何時迄もそれを直して居ります。此の樣な譯ですから、親戚の少女の來た時は非常の喜び、何時間も人形を並べ、紙布を切りなどして、大人しく遊んで居ります。又鉛筆は自分で置き所を定めて置き、紙さへ手にすれば直

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に「エンチユ、〳〵」と申して、それに旗を書て居ります。近くに妻や私が居りますれば、必ず何か書かされますので、誰にでも何か書て貰つて居りますと誰が參らうが、又往來に樂隊などが通りませうが、少しも耳に入らぬと見え、専心筆に眼を注いで居ります。又私などからは、餘り此は何、あれは何と進んで敎へた事はないのですが、身の廻りにあるもの、又は見馴れぬ物を見た時は、勿論「アレ、ナーニ」と連呼致し、敎へて遣らぬ中は何と云ふても肯きません。又自分の傍を通る人は誰にでも「アレ、ドナタ」と問ふので、折々は大に困る事もあります。又此の物事を問ふのは一の癖の様でして、假令自身の着て居るものにても「コレ、ドナタノ」と問ひ、知て居るものにても「コレ、ナーニ」と、妻や私には尙更ら、懇意なる人には常に左様問ふのです。

前記の様な次第で、長男の今爲しつゝある所と、私が爲て來た所とは、略ぼ同じ徑路を採て居る様です。此は一種の遺傳ではあるまいかと思つて居ます。所で、私は極めて幼少の時から父母と手を分ち、伯父伯母は父母も及ばぬ愛みを受けては居たのですが、人生としては幸福と云ふ事は出來ない次第と考へます。其後十歳の時までには、姉、伯父、父は皆此世を去り、伯母一人に育てられましたので、續く不幸の爲めか、性質が非常にイヂケ、小心翼々として、惡戯盛りの十一二歳の時なとでも、戸外に於て暴れ廻ると云ふ様な事はなかつたのです。斯様な譯で、今日までも矢張り其性質を抜く事が出來ず、何事にもクヨ〳〵して大膽の所がない。如何にもして膽力を養成したいと心掛けて居りますが、到底効果を奏しません。それで、私はドウカ長男は男らしき性質を持たして遣りたいと思て居りますが、只今の様子では私に酷く肖て居る様です。けれども、前記の様な高島氏の説を參照し、今の内の敎育の仕方に依ては、私の様な性質を持つ様な事は無からふと存じます。それには、先づ體育と云ふ事が第一の問題であらふと考へるのです。身體健全にして快活の精神を保ち、且つ膽力を大ならしむる事が出來たらば、男らしき男として、尙物事に細心な腦力を備へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た人物とする事が出來樣かと思ふ。體育の方法に就ても、或は海濱に住んで、大洋の空氣に浴しつゝ、海岸を走り廻るとか、山深き處に多くの酸素を呼吸しつゝ、鳥獸を友として遊ぶとか云ふ事は出來ないので、唯猶額大の庭と、雨露を凌ぐに足り日光の射し込み多きと云ふ丈けの矮屋に住ひ、そして强健の男子として養育したいと云ふ希望なのであります。

記者は右の所說に對して、目下の處別に明論を持ちませぬ。特に問題が人性上の根本に亘つて居りますので、單純な心理學位では、到底學理的の解決をつける事は六ヶ敷いと思ひます。それで、記者は理窟の詮索を離れ、極めて平凡な常識の力でこれを一應考へて見ますに、勿論保護者と周圍との關係で、或點迄は其理想を實現し得るものと思はれます。併し乍ら由來人の性質は先天的のもの故、元質の分量をして意の如く增減せしめやうとするのは、或は不可能の事ではありますまいか。記者は其愛兒に偉大なる勇氣を吹込まうとするには、其弱き胸に上帝に對する熱心なる信仰を植付けることこそ、あらゆる人工に超絕した方策であらうと信ずるのです。

料理の一品

茶巾長芋の拵方

原料

長芋	中	一本
堅魚煎汁		一合二勺
みりん酒		四勺
砂糖		十五匁
醤油		六勺

薯蕷を一寸五分位づゝに切りて、皮を薄く庖丁にてむき、湯の煮たちたる(温度攝氏五十度)鍋に入れて(むきたるを水に入れ、それを取上て水を切り)湯煮すること十五分間。さて、取上て、別の鍋に入れ、だしみりん砂糖を加へ、炭火にかけ、次に醤油をも入れて煮るべし。時間は十分間餘なり。

右出來たるを、布巾に一つ、二つづゝ包みて、右の手にて上の方をひねり、中のいもをくづして、丸くなし、右の手にて上をかたくしぼりながら、左の手のひらのふくれたる所へおしつけ、次に左の大指にて、今おしたる所の眞中をおしつけ、都に布巾より取出して皿にもるべし。(石井式部記)

歐米風俗 戀の日

「エイプリル、フール」(前號所載)中に一寸見えて居た「戀の日」に就て、記者の友なる在米の長田生より、次の如き通信が來て居ます。これも、四月の「いたづら」を紹介致した緣故に依り、後ればせ乍ら諸君の一粲に供する事にした。

二月十四日は如何にお過しでした? 此日は所謂 St. Valentine's Day と申し、搜れば隨分趣味のある歷史が附隨して居る日です。併し乍ら、こゝでは管々しい考證の陳列を止め、當日小生が直接に見聞した事共を少しばかり書綴りました。

偖このヴアレンテインの日と云ふのは、轍頭轍尾異性に關係した祭日故、事實甚だ濃厚なものであります。これを頑固な道學先生に云はせたら、一も二もなく排斥して仕舞ひませうけれども、多少新空氣を吸つた人々ならば、屹度此趣味を珍として歡ぶ事であらうと思ふ。一口に申せば、戀の日で、情人同志が互に云ひかはし、二世掛けて變るまいぞよ變らじと、近松式なら行く所です。そして、結婚の約束、許嫁、(此事は沙翁作中の「ハムレクト」劇にも書いてある)等には態と此日を選ぶのが普通になつて居ます。

そこで、當地に於て(英吉利も同じ)廣く行はれるのはカードの遣り取りで、愈々此祭が四五日の内にも迫つて來ると、市中の本屋は右のカードの店頭へ綺麗に飾り立てます。カードの種類は幾通りもあり、大抵はクリスマス、カードのやうであるが、中には隨分意匠を凝らしたのがあります。カード以外では繪葉書で、其繪の間には愛情に關した詩等か一行位印刷してあるのが多い。(無論贈り合ふ間は異性に限るので、男同士、女同士には何等の効力もないのです。)そして、所謂青春の血燃ゆるが如き青年男女の間には、別けても華麗な濃艶なカードや葉書を用ひて、美しい心情を形式と共に吐露するのであります。

こゝに一種の面白いカードがある。それは、極めて粗末な、鄙俗な、其代り諷刺の意味を含めた戯畫であります。かゝる戯畫は何の爲に用ひられるかと申せば、平生自分の知つて居る男なり(女より見て)女なり(男より見て)の、持つて居る惡い癖とか、性質とかに對し、大に諷

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

刺して矯正させると云ふやうな時の趣向に出來て居るのです。假へば、こゝに自分の知合に頗る吝嗇な細君があるとする。すると、それに匿名で以て「安物買ひの鼻落し」と云つたやうな意味の戯畫と戯文を書いたカードをば送るのです、或は何時も薄ぎたない獨身生活をして居る男があるならば、「男やもめに蛆が生く」流の畫を送て、反省を促すと云ふやうな事もありませう。大體を記すと斯樣なものです。彼の「花に逢ふ瀬をまつとせの、あけて嬉しき」てふ所謂日本の懸想文とはこの法式全然結構を異にして居ますが、兎に角彼等白人の面々は、只さへ自由な男女交際を、時に斯る年中行事？に憂身を窶して、益々天眞爛熳の趣味に浴しやうとするのは、實以て羨しい事であります。

日本では先づ――將來は知らぬこと――當分は行はれまいと思ふ。縱し行はれるものとした所が、青書生と海老茶式部の間位と云ふ極々狹い範圍で、それも一種の趣味なしに行はれる事は不可能であらう。小生はかゝる天眞爛熳の風俗が、愛する日本の社會に多少變形してでも移植ゑられるやうになつたならば、どれ丈愉快にして興味深き事であらうかと、心に痛く感じて居るものて御座います。

●四月の『いたづら』の結果

極めて小規模で而も狹い範圍ではありましたが、記者の友人仲間、家庭仲間で、去月例の「いたづら」を試みて見ました。豫め約束をしたのは、只十日ばかり前でしたので、なにお互に決して忘れはせぬ。瞞着されはせぬ。一日になれば、朝から警戒して居るから、と餘程堅固なものでしたが、さて其日になつて見ると、すつかり忘れて居たのが多かつた。利用したのは大抵架空な電話で、別に深い計畫とては出來なかつたにも係らず、如何にも易々とお互に愚弄されたのは妙でありました。其中で一番秀逸であつたのは、ある友が嘗て親讓とかの金時計を掏摸にやられた事であつた。併し友は其後充分諦めた付て居たのを、其朝になると、突然警察から電話が掛つて、金時計が出たから早速取りに來いと云ふ知らせを受けた。友たるもの欣喜雀躍せざるを得ない。早速妻君に打明けると平生はなか〳〵締りや乍ら、嬉し紛れに近所の宿車一輛を雇つて來た。友はとるものも取り敢へず、肩で風を切つて警察へ行つて見ると、南無三寶、小使は冷淡に「何かのお間違ひでせう。」と云ふ始末なので、友は始めて氣が付いた。何かの間違ひではない。自分の間違ひてあつた。あゝ殘念、殘念、と丸で九天の上から奈落の底へと突落されたやうな心地で、萎頓して歸つて來た。其萎頓した顏を妻君が見た一刹那はまあどんな有樣であつたらう。容易に其悲慘は想像されるのでした。後でそのいたづら者の誰であるか分つた時、金時計の友は此樣な川柳を作つて、自ら其鬱憤の情を慰めて居た。

▲意趣返しあゝ來年が待遠い

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

面白からぬ思想習慣

米國の文界に名をなしたヨチ、ノグチ氏が、十三年振りで懐しき郷土に歸られしは、最早半年も以前の事であつた。そして、其懐しき郷土が氏の詩的眼光に如何に映し、如何に味はれたかは、折々の作品にて既に世間に洽れく知られて居る。只一つこゝに氏をして大に落膽せしめたものは、日本社會の上下に滔々として俗をなせる思想習慣の面白からぬ節々で、折角美しき美術國の自然に醉つた氏の詩腸が代りに甚く汚されて了つた。其結果、氏は其美しき文を綴る筆で、故國の欠點を書き立てる程の不快を忍ばねばならぬ事となつたのである。

これを一見した記者は、其指摘した綱目が一々無理なき觀察である事を思ひ、且つ記者自身が平生考へて居る事と符合する點も多いので、左に最も適切と感ずる要所を少しばかり節錄する事にした。

これに就て、依田學海と云ふ學者は、日本の粟を食んで居て、日本の悪口を云ふとは何事かと、縮々たる愛國心（?）を披瀝して、怒鳴り立てたと云ふ話であるが、併し吾等は其樣な威嚇に一寸たりとも屈服するものではない。吾等は國の從僕でなく奴隷でない。誰ら粟を食まうが、米を喰はうが正しい道理を曲げる事は命に掛けても出來ないのである。

汽船が横濱!の波止場に着いて、丁度眞向ひにひよいい、くりと我等を迎えてゐてくれる富士山が見えた時は言ひしらず嬉しかつた。ある外人が甲板の一方に立つて喝采の聲を上げたのも無理ではない。然し此愉快も少時の間で、頓ていよ〳〵船が着くと如何であらう、幾艘とも知れぬ艀船が見てゐる中に、何の順序もあらばこそ、各自に先を爭つて汽船に寄りついて來る、無數に來る。是は自分が着くより先づ奇妙に思つた事で、考へて見ると日本人は元來金錢上に關しては綺麗な所を見せかける習慣があるが、實際は全く金錢に汚ないので、此の艀船の連中が組合を一つにして大きな商賣を爲ようとはせないで、めい〳〵自分達の勝手にするやうに、何事にも大聯合で大金儲をするといふやうな考へが少しも無いらしい。

それから日本人の平等主義でないと云ふ事は、大變な眼障り耳障りで、久し振りで歸朝した自分には最も苦痛に感じたことであつた（試みに阿米利加に就いて言つて見れば、大統領のルーズベルトを呼ぶのにも、ハローチヤレー（オイ貴樣）といふ口調で、是がまた如何な地位の人間が斯う呼んでも一々平氣で返辭をしてゐる。然るに日本に歸つてくるとすべてに形式が多

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くて、アナタ閣下、殿下、と人を呼ぶに色々の使ひ分けをせなければならぬ。さうかと思ふと單にお前で濟むこともある、此使ひ分けには殆ど閉口する。

形式！、つまり日本は萬事複雜で手數がかゝつて少しも單純でない。同時に非平等主義と共に隱蔽主義で何でも物を隱し立てをする。即ち公明正大でない所がある。米國の方で一寸家の内を見せて貰ふといふ場合にも、即ち或人の家庭の樣子を見せて貰ひたいといふと、其家の主人なりおかみさんは悅んで、どうぞ、御覽下さいと言つて客間やお座敷は勿論、臺所、部屋、押入れまですつかり見せ、是が私の臥床で、是が自家の雪隱でといふ調子に、隅から隅まで一點の隱し立てなしに明かして遺憾なく見せてくれる。是が日本人であると、床の間とか、茶の間ぐらゐだけを見せて、後は御覽下さる程のものではございませんと言ふ風に、成る丈け隱さうとして容易に人を信じない。是は一般の通弊だと思ふ。萬事が此の流儀で、人に隱し人を疑ふと言ふのであるから、日本人には交際上の美德が少ないと言はなければならぬ。特に外人の眼に映じたる本邦はたしかに眞相でない。昔から人を見たら泥棒と思へといふ古諺はよく、日本人の眞相を說き盡くしてゐる。電車に乘つても先づ掏摸の御用心といふ聲を耳にするが、此は非常に乘客を侮辱した言葉で、公德心のないお客樣と言つてゐるやうなものである。それからモッ一つ不服なのは電車に乘る。切符を買ふ。切つて貰ふ。それを又下りる時に手渡しするといふ煩多な手數で、一度渡した切符を更に受取るといふやうな事は、何所の國だつて滅多に有るものでない。それは互に信じ合つてゐるから、金さへコトンと落として行けば濟むので、切符を切るの渡すのといふ必要は少しもない。即ち日本ではまだ車掌も乘客も、雙方共に惡い事をするから、今日のやうな有樣になつたのであらう。又米國で或家に下宿するとか、雇はれたりした時でも、若し主人が外出をして其日の歸宅の遲くなるといふやうな事があると、家を出る前に金庫でも戶棚でも家中全體の鍵を預けて、何の室を開けるには是

の鍵、何の房はどの鍵で開けろと言つて一切の鍵を渡して行く、譬へばそれが初めての者にでも左様である。斯く直ぐに人を信ずるといふことは、まだ仲々日本人には望まれないやうに思ふ。

手紙の讀合ひ！、之れも日本人のやうに虚僞な手紙、形式的な手紙ばかりを書いてゐるものには、手紙を他人と見せ合ふなどゝ言ふことの出來るものでは無い。又實際に無いやうだ。しかし米國などでは實に公然たるもので互に手紙の讀合ひを以て、一の娯樂として居る。此は故郷の父からきた、これは兄弟から、此は友人から、或は此は自分のスヰートハートから來たのだと言つて、其間に少しの隔てもなく、折々彼地の學生が愛人の手紙などを讀み廣げて、愉快に語り合ふなども寧ろ天眞爛熳愛す可しだと思ふ。

然し日本の今日の社會が不一致で、隨分混雜してゐるのは一般に免かれない次第である。古來から日本の特性として外國の文明を採る時分に、その全體を採らないで自分に都合の好い部分だけをとるといふ傾向がある。甚だ狡猾い方法で又たしかに一特性である。彼の支那や印度の文字でも、文學でも、其他色々のものを採つた中には皆此の癖の存してゐるのが分かる。今日の歐米の文明をとるに就いても悉く此の調子で、此方の都合さへ好ければ洋服を被ても、足駄を穿いたつて構はないといふ、つまり自分の好きな點だけは遠慮なく取るといふ選り好みな所がある。是れが即ち日本人の長所で、同時に日本の社會が不統に、不一致に亂雜になつた大原因であると思はれる。

注意

▲二葉園藝（花好きの人の爲質問隨意）
▲家庭通信（讀者諸君よりの通信を掲ぐ）
▲西洋料理の栞（森亭主人擔當にて質問に應ず）
▲讀者の顧問（新家庭を作る人に取つての相談役）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭者としての吾 男性の缺點

此頃の新聞雜誌で能く流行る、「女の研究」など云ふ隨筆の中に、『妻は米なり。旨くともまづくとも食はざるべからず。』を始め、『妾は鰻飯丼なり。濃厚の所に味あり。』と云ひ、其外、藝者は何、娼妓は何、女學生は何、と一々喩を上げて、餘程の女通を利かせたのを見た事がある。これは、妻に對する道德的感念の缺乏てふ、男性社會の一部の思想を最も明白に廣告したものと云ふ事が出來る。そして、斯かる下等の男子に限つて、今や漸く希望の曙光に近付かうとして居る女學生を厭ふ事は、殆んど蛇蝎を見るが如しと云つても宜い。其これを厭ふの原因は何れにあるかと云ふに、畢竟見識が高き故である。彼等は動もすると、自己の才能、學識、德性、意志等に比し、新教育を受けた女性の方が一歩を拔いて居るやうな事實のあるのを發見して、直に自己の壓迫者――快樂自由の妨害者顯はれたりと想像する。此等の男性が一に奉持する所の信仰は婦女子の「色」にあるので、其所謂「色」も我家の妻に依つては到底得られぬものと思つて居る。斯くて、彼等は藝者買萬歳主義となり、妾倖崇主義となり了りのである。

『妻は米なり……』この一節は少くとも、社會の女性の間に最も眞面目なる分子として誇る事の出來る家庭の主婦に對し、甚しき侮辱の文字を弄したものと云はねばならぬ。けれども、只恨むらくは此觀察が往々にして事實と符合して居る事で、婦人の側から云へば、未だ直にこれを否定し得る丈の強味がない。

例を以て申せば、現今貴婦人と云ふ尊稱を得て居る縉紳社會の內君である。宏大な邸を高燥な土地に張り、家庭敎師を聘し、三太夫を置き、十數人の雇人と數頭の馬とを養ふ間に、彼女は一家の內政を掌り、育兒の重任に當り、そして家運は益々日の出の勢。のみならず、社交界には充分の羽振を利かし、慈善事業に於ては、其名磐石の重きをなすと云ふ程の榮譽を荷ふ夫人にあつても、獨り夫の愛を獨占しつゝあるかと云ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

問題になると、氣の毒千萬な感に打たれずには居られない。此家庭の賢夫人、社交界の女王其人が、實に愛の爲には屢々凌辱を加へられて居るのである。彼女が巧妙なる家政術も、社交術も、夫の性行を清淨に廉潔にすると云ふ點には、何等の價値も効能もないらしい。畢竟は只『米』となるに止るので、『鰻飯丼』の役は別に勤める者がある事になる。

又これは往々我々社會にもある事だが、旅行などをする時に、細君同道は大袈裟になると云ふ理由で、旅は必ず一人旅、さもなければ『友人同伴』と、固い憲法を作らへて居る一家の主人がある。其内心を聞いて見ると『細君が居ては面白くない。』と云ふ。これ慥に快樂と細君とは別物であると云ふ思想を語つたもの。而も、その快樂たるや、賤しい性慾の滿足で、一言にして云へば賣女の色を樂まうとするに外ならぬ。縱し又其人に賤しい野心がないにしても、傍に細君が附て居ると、何となく窮屈で、自由の意志を束縛せられる、と云ふ考へが乾度あるに違ひない。これも甚だ不條理な話で、これ程大きな矛盾は滅多にない。世に我妻よりも親しい人が何處にあるだらう。其親しい間柄で居て、自分の行爲を他人には見せても妻には見せられぬ、と云ふは何等の奇怪！これ既に其心裏に於て、妻に對する一種の罪惡、不道德を豫想して居る證據であらう。

それから、男性で特に都會に育つた人の中には、屢々恐ろしいガストロノマーが居る。そして、其美食家の胃の腑を滿足せしめる爲には、日夜割烹の書を繙き、或は料理大家の稽古場へ日參して、只管其技の上達を祈ると云ふ細君を見る。人間慾望の半面が形以下の滿足である以上、是とても、强ち咎むべきではなからうが、只此樣にして迄も夫の機嫌を取り、其好きな料理屋通ひを止めやうとする細君の心根は、寧ろ憐むに堪えた次第と云つても宜い。尤も、これで幸ひ美食家の滿足を得れば結構であるが、多くの男子は眞實料理を賞せんとて料理屋に上るのではないから、この點も亦頗る心細いもの。此間ある所で聞いた話に、ある若夫婦が一つの新しい家を構えた。處がその夫が道樂者で、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

度々宴會、繁務等を柄にして家を明ける。細君は驚いてこれを下婢に諮り、頓て相談一決の結果は次のやうな事であつたと云ふ。即ち、或土曜日の夕、夫が役所から歸つて來ると、其邊が奇麗に片付けてあつて、丸で料理屋の座敷のやうな設備がしてある。それから、下婢の取扱ひが全く一變して、料理屋の女中よりも調子が宜い。主人は奇異の感に打たれ乍ら、洋服を和服に着換えて居ると、今度は其細君と云ふのが非常に意氣な島田に結ひ、藝者のやうな衣裳、藝者のやうな言葉付、藝者のやうな身振をして、百千の媚と婀娜とを見せたと云ふ始末。尤も其結局は矢張駄目で、其夜も主人は又何か口實を作つて、料理屋か待合へ行つたとあるが、實に馬鹿氣た話である。此樣な極端な細工をして迄、其蕩樂者の歡心を買はねば細君となる事が出來ぬのであらうか。見識なく主義なしと云ふも、これでは丸で話しにならぬ。更にこれを主人の方から考へて見るに、それ程藝者が好きなものなら、何故態々手數をかけて妻を娶つたのであらう。殆んど其意志のある所を測定するに苦む譯である。

併し乍ら、以上の實例に少しも不思議な點とてはない。實にこれが我國男子社會の一般の思想で、「妻は米なり……」流をば形に顯はしたものである。これを一層明晰に云へば、米は人の生命を繋ぐ糧であるが如く、妻は家を治め子を生む器械であると云ふにある。畢竟妻は社會に對する道德上の飾物と同じ事で、實利以外の快樂の對象では全くない。そして、今日の男子社會はかゝる背理を敢てし乍ら、以心傳心的にこれを默許して居ると云ふ姿である。

予はこの背理に向つて餘り高く叫ぶの勇氣がない。蓋し予にも一縷の連帶責任はあるであらう。只、思ふて聊か諒とすべきは、男子社會がかゝる卑劣な態度に出るのも、斯からんとして斯りしにあらず、專橫なる男性一般の思想が彼等を養育し、彼等に嗜好を供した譯故、これを以て直に彼等の罪と云ふ事は出來ぬ。

この弊所を救濟するには、一面女子の人格を高めて、女性社界の勢力を強める事に考へを向ると同時に、他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の一面には、此等男子に眞の愛を知らしめ、其粗雑なる胸底に、一種デリケイトな情感の美を吹込む事が主なる方法でなければならぬ。そして、これが先覺者の力を竭すべき事業の一つである。(渚山)

家庭雑誌毎號面白く拜讀して居ります。殊に近刊吾兄の「誕生日の趣向」は深き興味を以て拜讀しました。四月二日は嘸御愉快なとでありましたらう。僕は毎月少なくも三四回は種々な會合に臨みます。其會合は何れも靈的の清い集りでは有りますが、唯遺憾なのは席上に趣味を缺いてゐる一事であります。「誕生日の趣向」を讀んで大いに學ぶ所がありました。最兇の掲載されるのを樂んで俟つて居ります。近日某夫人の育兒談をお眼にかけたいと思ひます。

四月六日夕認む　加藤眠柳

(お葉書に接して甚た慚愧に堪えませぬ。吾等は平生道徳の神聖と威嚴に恐れるものでありますが、一方には花やかなる趣味を要求致すものです。但し誕生節の小會は決して貴兄が想像下された程満足なものではありませんでした。都合に依り本號には掲けませぬが、何れ其内に貴意を得る事に致します。某夫人の育兒談は是非送つて下さいまし。――渚山)

『簡易生活會』の反響

前號所載の「簡易生活會」は痛く讀者諸君の意向に投し、熱心に贊成の意を表して來た方が十數名もありました。今其中の一つを左に掲けます。

安養寺氏の簡易生活會に就きての記事は大なる同情を以て讀みました。僕は今日まで餘り世間的の交際をしない方であつて、實は變人と呼ばれることであろうと思つて居る。變人と呼ばれると知つて、その態度を改めないのは全く經濟上の事情で、收入の尠き僕の如きが、世間的交際をしたものなら、半年と僕の一家を維持することが出來ないだらう。

此の理由で、僕は僕の恩人や友人を訪ふ時にも、手土産として物品を持て行くと云ふ考へを置かず(顔を持て來たから御土産はない)と云ふのが僕の流儀であります。幸ひに、僕の知人は僕の心意を諒し、變人とは呼ふであろうが、未た門前拂ひを喰せたことはない。これも、外見とか交際上の禮儀とか云ふことに幾分か冷淡な田舎である故かも知らない。こんな譯であるから、僕の方へ人が來た時にも、打解て話す事を主として、喰ふのは第二第三の問題にして居る。これで惡るい方には、交際を御免蒙ると云ふ風であるので、僕の友人は甚だ尠い。而し、尠くても氣の置けぬ人達丈けである。

僕は簡易生活會に大贊成を表する。而し玆に希望を述べたい。それは、安養寺氏の規約は都會には適當であろうが、田舎向きには欠けて居ることもあるやうに思はれる。で、同志者の内から數名の規約編製委員と云ふやうな者を選定し、其委員で都鄙に通じて行へるやうな規約な規定し、堂々と簡易生活會と云ふ旗を擧けるやうに盡力して下さい。

今の風習には隨分閉口して居る人が多いけれど、これを改めないのは只あの家とかあの人とか云つて、世間體を恐れ、斷行する丈けの勇氣がないのであると思はれる。初めは少數でせうが、段々同志は増すに相違ないと思ひます。極力の御働きを願ひます。(午山生)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

筆ついで　浩山

●青年の結婚

山下氏と云へるが記者に書を寄せて、自己の所信に基き、當分結婚問題の一切を斥けたいと思ふが誤りなりやと云ふ相談があつた。そして其所謂所信なるものが、飽く迄健全で、公正で、一々吾等の意を得て居る。こゝにはこれを悉く掲ける事は出來ぬが、極々簡單に縮め、これに予の考も多少加へて見ると、大凡左の諸項となる。

(一)より多く理想に近き婦人を得たきが故に。

(二)正當の趣味慾望を滿足する事の出來ぬ程哀れな貧世帶を恐るゝが故に。

(三)相婚する前には是非共其對手と相知るの必要あるが故に。

偖(一)の理由は何でも急いで妻を得やうとする大學卒業生などが箴とすべきもので、急げば平生の理想も大抵は頽れて了ふ。又年の點に於ても、可成的年若き乙女とを云ふ希望が一般青年の頭腦にあるやうだが、十八や十九の少女に完全な人格が備らうとは思はれぬ。既に對手に年若き乙女を望むならば、男の方もこれに準じて相當に若き年齡でなければ釣合が取れぬ。これ程危險な結婚はない。(二)は前號の『結婚と生活問題』と同じ理由である。只女と男との違ひがあるばかり。尤も、貧をも恐れず、苦をも忍ぶと云ふ婦人が、此世の中にないとも限らぬが、假令其樣な烈女があつたにしろ、それが故に結婚其物を早める必要はない。お互に延びられる丈延びるが宜い。そして、婚後に嘗める二倍の苦痛を避ける工夫を講ずるが宜い。(三)共に相知る事は殆んど結婚の目的を持たぬ者でも、兩性の性情を磨く爲には必要である。況して一生の苦樂を共にしやうと云ふならば、何より先に相手の全體(缺所、長所、嗜好、學識等)を充分に知つて置くのは婚者の義務であらう。

尤も右の内第二の場合に於て、志望が運惡く遂げないならば、其機會の來る迄は、幾歳になるとも結婚し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てはならぬかと云ふに、これは少々考へ物である。此に就ても、山下氏はまた正しい着實な考へを持つて居るらしい。即ち、獨身生活は大約三十歳迄と定めて居る。已に三十歳に達するも、相當の收入を得る事が出來ないならば、それは本人の才能と力が許さぬのであらうから致方がない。第二の條項はまづ諦めてしまはねばならぬ、と云ふ意見である。

記者は全然右の條項に贊成する。

●日々の事業

事業は高い處にも廣い處にもあるものでない。日常生活の間にある。事業とは何ぞ。自己の弱點、缺所を打懲し、家庭の惡習を一日も早く拔去り、かくて胸中の理想に適合した人格を作り、家庭を作ることが大なる事業ではなからうか。

假へば朝寢をやめること。飲酒を廢すること。不規律を正すこと。或はこれを精神的に云へば、小膽者が強き意志を養ふ工夫、良心の光を愈々磨くこと。親切の情を豐富に貯へる方策、皆なこれ一生涯の大事業にはあらざるか。

▲卷頭の一篇　米國の離婚問題は、直にこれを我國に移して見る事が出來ます。熟考して戴きたい。

▲高橋稲子孃へ　いと長き同情深きお手紙に接し、記者の勇氣は百倍致しました。別に書面は差出さず、言葉は甚だ簡單ですが、感謝の念は胸に溢れて居るので御座います。

▲西洋料理談　本號は休載しました。それは筆者の緑亭主人が風邪で床に就かれたからです。

▲『直言』の婦人號　『社會主義の理想は婦人のやさしき心の發展なり』と標榜して、『婦人號』が出ました。活氣縱横、材料豐富、就中堺氏の『婦人問題概觀』などは、必ず一讀して置くべき文字であります。それは二卷の十二號で、先月二十六日の發行です。

●新刊圖書二種の紹介　過日本社へ贈つて來ましたもの、一は『割烹新書』で、隆文館の發兌です。初めに割烹の精神、割烹と衛生など云ふ題目を掲げて、總論となし、それより日本料理の數々を四季に別つて書立てゝある。近頃出た内では出色の料理書だと思ふ。體裁も立派です。一册八十錢。――次は警醒社から出た家庭の讀物『家庭閑話』と呼ぶのです。キリスト教の眞理を土臺となし、其妙味で色を付けて、至極平易な物語が集めてあります。信仰ある母親の部屋の書架には必ず此一册を供へずには居られぬ。一册五十五錢。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

坪内逍遙著

牧の方

東京座五月狂言

實價四拾錢
郵稅六錢

春陽堂發行

柳川春葉著
鰭崎英朋畫

小說 いさゝ川

文章典雅にして詩趣掬すべきもの、春葉氏の短篇小說は天下既に其妙を稱せり。本書は氏が多年の作品より、十數篇の粹を拔きて、釘裝の新案、挿畫の艶麗、實に案上の清翫に價す。若夫れ其內容を言はゞ、時や宛も菫匂ひ五彩花咲く野の春を此處に移して、其獨特の筆致は、長閑に清き細流の、妙なる自然の囁もて人の情を語るが如けん。

實價四拾錢
郵稅六錢

幸田露伴氏序
柳川春葉氏序
時雨庵安藤和風編

類題 閨秀俳句選

編者は明治文運の昌隆を極め小說に於ては一葉短歌に於ては晶子等の名媛を叢出し獨り俳壇に之を缺くは女性に適應せざるや否やの自問を發し既往の史蹟に稽がへ古來の文獻に徵して元祿前後より天明前後を經明治以前に至る閨秀數百家の錦章繡篇を網羅して之が解決を與へ以て當來の閨秀大家促進に資し併せて點茶挿花以上の美育を新家庭に皷吹せんことを試み女流の俳句集としては蕪村の『玉藻集』以來の大成にして女性は言ふ迄もなく苟くも俳紙に遊ぶものは男性と雖も必讀の好書なり猶附錄に作者人名錄を添へ時代國處姓氏別號等を明にせり

洋裝袖珍
頗美本
實價四十錢
郵稅六錢

發兌元 東京日本橋通四丁目角 春陽堂

直言婦人號

醒めよ婦人……木下尚江
婦人問題概見……堺利彥
獨逸軍人の結婚……石川旭山
女學生と社會主義……
英國婦人撰擧權獲得運動……
結婚は唯金に依る……
社會主義の婦人運動……
一萬八千の女教員……不可汚生
探偵さんとお花見……ため子
如何にして社會主義者となりし乎……（婦人數名）
さくら宗吾……そろり

▲毎週日曜發行▼ 一部三錢五厘▲二十部前金六十五錢 郵稅を要せず

發行所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社

西川光次郎著

富の壓制

定價拾錢（郵稅を要せず）

△此書は西川氏が過ぎし四年間に爲せし演說や、重なるもの丶筋書を編輯せしものなり

△西川氏今や理想鄕に旅行し、親しく社會主義傳道の聖職に當る能はざるより、留守中此書をして氏に代りて、主義の爲に盡す所あらしめんが爲め特に再版して本社より發行したるものなり

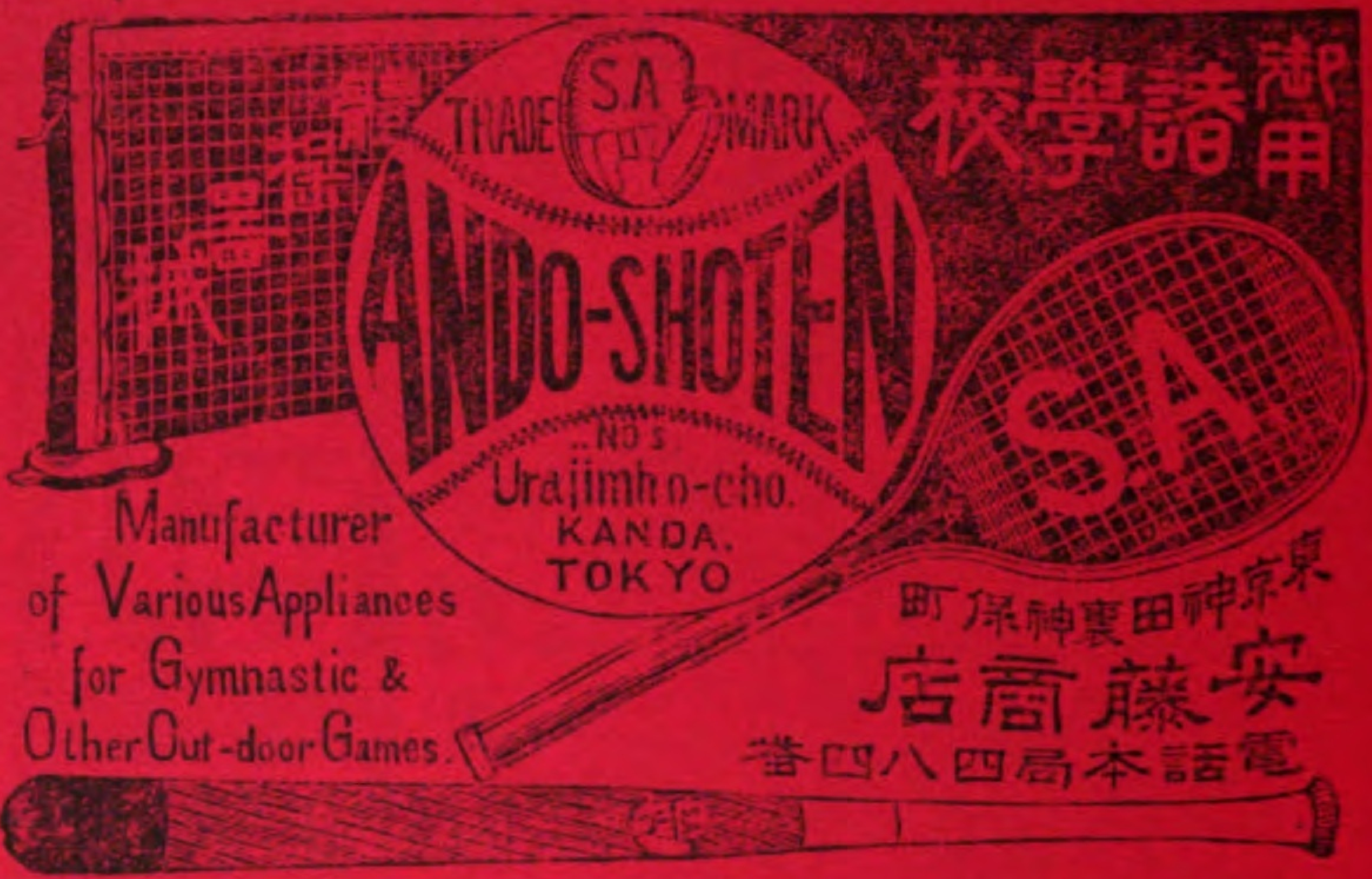
英國勞働界の偉人 ジヨン・バーンス

△此書も亦西川君入獄の紀念として、特に增補再版したるものなり

△此書若し幾許か英國勞働界の偉人の面目を傳へ得て、日本勞働界の好靑年を感奮せしむるに足るものあらば、即ち著者の志は酬ゐられたりと謂ふべし

△此書は「平民文庫五錢本」として發兌す、即ち定價五錢、郵稅二錢、但し他書と同時に或は二部以上同時に御註文あれば郵稅を要せず

發行所 東京麹町有樂町 平民社 電話本局 三二六二



改良ロンテニス 二重枠ラケット一組

一號品		一二、五〇〇
二號品		一一、〇〇〇
三號品		八、八〇〇
四號品		七、四〇〇
五號品		六、七〇〇
六號品		五、七〇〇
七號小學用		四、七〇〇
八號婦人用		六、〇〇〇
九號婦人用		七、〇〇〇

東京神田裏神保町五
S.A. 安藤商店

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五〇
二號	一張五間半	二、三五〇
三號	一張六間	二、四五〇
四號	一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

隆文館新刊家庭書

井上善兵衛先生
嘉悦孝子先生　合著

新刊

割烹新書

上巻

（下巻近刊）

和漢洋の料理法を大成したる者本書の外になし矣如何なる家庭にも一本を要す

總クロース製
本金文字入凾
美装

定價金八十錢
小包料金十錢

上巻要目

總論
割烹の精神　割烹と衛生
臺所の構造　割烹と經濟
割烹の時及び器具の清潔
食品及び器具
食品の撰擇　植物性食品　動物性食品　食品鑑別法　著色料の注意
調味食品　食鹽　醬油　味噌　酢　砂糖　味淋　鰹節　昆布　乾瓢　椎茸
煮出し類　鰹節煮出しの製法　昆布及び乾瓢煮出しの製法　椎茸煮出しの製法　煮切りの製法　灰汁引き砂糖の製法　灰汁引き製鹽の製法
食品の貯藏　諸菜貯藏法　菌類貯藏法　果實類貯藏法

器具に對する注意
木器割烹器具の種類　金屬器　陶磁器　硝子器
庖丁法及び食品使用法
食品の切り方　鳥類の切り方　魚類の切り方　貝類・軟體類・甲殼類の切り方　野菜の切り方
食品使用法　鳥類　魚類　貝類・軟體類・甲殼類　豆類　蔬菜類　根菜類　果莖類　及び瓜類類　海藻類　菌類　香辛料類

家庭料理
春の部　汁・汲び物類　膾・刺し身類　浸し物類　煮物類　蒸し物類　燒き物類　揚げ物類　田樂類
夏の部（全上）
秋の部（全上）
冬の部（全上）

棚橋絢子先生
嘉悦孝子先生　共著
新案日用家事讀本
上下二巻定價各金六十錢郵税拾錢

小兒科醫小澤
鹿十郎先生著
小兒のそだて方
（再版）全一冊定價金三十五錢郵税金四錢

[illegible]成女學校編纂
[illegible]料理[illegible]用
家庭暦
（再版）全一冊定價金三十五錢[illegible]

發兌元　東京京橋尾張町一丁目（電話新橋二五八六番）　合資會社　隆文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は特藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢 廿二日分(常備用)金壹圓 十日分金五拾錢 六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢

本舗 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

發兌元　大阪　小林支店

粉製　**赤罐入**　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA